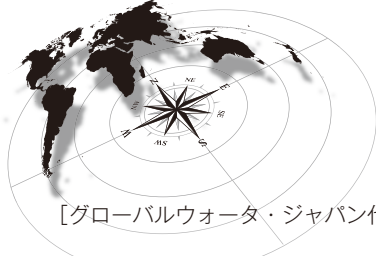




グローバル・ウォーター・ナビ ■■■■■■■■■■ 28

第三回 国連・水と災害に関する特別会合ニューヨークで開催 ～皇太子殿下の基調講演“水に働きかける”～



[グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー]



吉村 和就

2017年7月20日、ニューヨーク国連本部で「第三回 国連水と災害に関する特別会合」が開催された。これは「水と災害」をテーマとする国連における唯一の特別会合で、目的は、水と災害に関する国際的な意識を高め、国際社会の水災害防止に関する活動を前進させることである。主催は「防災と水に関する国連事務総長特使」、および「水と災害ハイレベル・パネル (HELP)*¹」であるが、第一回から日本政府が主導している。オープニングでは、皇太子殿下のビデオによる基調講演が行われた。

※1 High-level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters

1. 皇太子殿下の基調講演

我が国の皇太子殿下は、第一回、第二回ともに国連NY本部での特別会合にご出席されご講演をされている。今回の会合には、残念ながらご出席はされなかったがビデオでご講演をされた。テーマは「水に働きかける」。英語で約27分間話された、その内容の一部をご紹介させて頂きたい。

「私は昨秋、信玄堤を訪れました。信玄堤は、日本の戦国時代の傑出した武将である武田信玄に

よって建設されました。信玄堤というと、堤防という構造物が連続して設置されているイメージを持ちますが、信玄の目指したところは、単なる堤防だけでなく、異なった機能の施設を巧みに配し、当時暴れ川だった釜無川の洪水を制御し、その豊かな水量の恩恵を自国にもたらすことにあったようです。(中略)このような角度から歴史的な水施設を見てみると、人はそこにある地形や自然のありさまを俯瞰し、それに対して自らの持てる知見と手段を適合させてきたように見えます。こうしたやり方は現在でも立派に通用するものです。今後の私たちが水に働きかけていくうえで貴重な示唆になりうるのではないのでしょうか」

さらに、海外の事例にも触れられ、「クアラ Lumpur では、2007年から洪水放水路と道路トンネルを兼ねた SMART トンネルが運用されています。この施設は200を超える CCTV カメラを設置するなど情報技術を駆使し、安全面に多くの配慮がなされ、現代の都市で大きな課題となっている都市洪水と渋滞対策に対し、一つの施設で解決を図っているところに特徴があります」と。

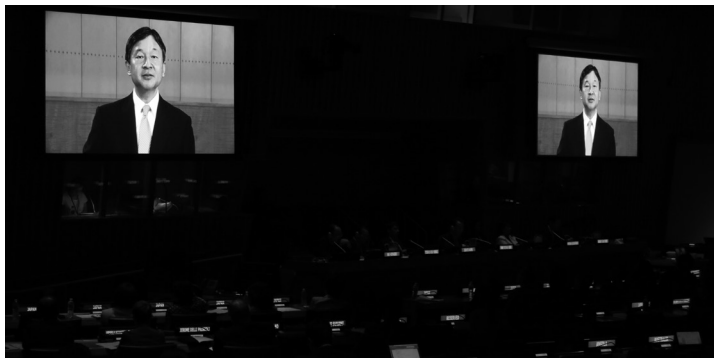
皇太子殿下、自らこの施設を視察され、その壮大な構想と実用性

に驚かれたと振り返り、科学技術の進展への期待を語られた。ご講演の最後に、「人類が掲げた高い共通の目標達成の礎をなすため、世界の人々とともに様々な水問題解決に向けて歩みを続けていきたい」と決意を述べられた。

皇太子殿下は日本の歴史的な水に関する事例を、自ら足を運び撮影した写真や制作した図表を用いて分かりやすく説明され、特に歴史から学ぶことの意義を語られている。

今回、サポート役として特別会合に出席した日本水フォーラムの関係者は、こうした皇太子殿下の水に対する真摯な姿勢、研究内容の深さは、世界中から集まったハイレベル・パネル出席者や多くの聴講者に大きな感動を与えたと伝えている。皇太子殿下の今回のご講演の詳細については、ぜひ宮内庁のホームページをご覧いただきたい。

筆者も第三回世界水フォーラム(2003年、京都)、第五回世界水フォーラム(2009年、トルコ・イスタンブール)、「国連水と衛生に関する諮問委員会」などで、皇太子殿下のご講演を直接拝聴したが、いずれの講演資料も自ら現地へ赴き、取材し、また写真も自ら撮影したものが使われている。皇太子殿下の水に関する造詣の深さは、国際的な水関係者の間では、「水の専門家」として良く知られている事実であるが、日本のマスコミは「皇太子殿下、水に関する会合で講演した」と事実は報道するが、その内容について詳述している例はほとんどない、残念なことである。世界が直面する水問題の解決策を、「水と人との歴史上の関わり合いを踏まえ、技術と智慧を持って水の輪を拡げましょう」と



【左】皇太子殿下のビデオ基調講演【右】国連本部 特別会合会場（ともに日本水フォーラム提供）

国際的にアピールする皇太子殿下の姿は、日本人の誇りである。

2. 特別会合の概要

特別会合は、第一回（2013年3月）、第二回（2015年11月）に続くもので、今回初めてハンガリーのアーデル大統領、モーリシャスのファキム大統領、ミャンマー・ヘンリーバンティオ副大統領など国家元首級が参加した。日本から二階俊博・自民党幹事長が日本国代表として講演。二階幹事長は、7月の九州北部豪雨の被害に触れたうえで、国土強靱化の重要性を訴え、「日本の知見や経験、教訓を、全世界に伝えていくことが日本の使命である」と強調した。

元首級の各講演の後、ハイレベル参加者による討議が行われた。オランダ国シュルツ・インフラ環境大臣が議長を務め、国土交通省の森昌文技監ほか、他国から6名の閣僚級や国際機関の高官が参加し、「水災害リスクの低減に向けた投資と資金確保」をテーマに討議した。森技監は、日本の経験を踏まえて、「防災は国のリーダーシップが重要」であること、「防災への事前投資を増やすことが重要」であることを指摘し、その実現のためには、①防災投資に関する原則を作成することや、②2016年9月の国連総会で採択された「水の行

動の10年（平成30年～40年）」の間は特別会合を定期的に開催することを提案した。

- 科学技術特別セッションでは、小池俊雄・ICHARM^{※2}センター長とカロンジ四川大学・災害復興管理学院長の共同議長により、水災害における科学技術の役割、災害リスクの低減を進める手法について討議。
- 吉野直行・アジア開発銀行（ADB）研究所長は、東海豪雨による矢作川洪水を例に、水災害が社会に与える直接・間接的な被害を定量的に分析し、地域GDPに及ぼす影響を検討した研究成果を発表。
- 海洋と水と災害パネルでは、ブリスコリ世界水パートナーシップ技術委員会議長の司会により、海洋に焦点を与えながら、世界における防災と環境保全の連携について討議された。

※2 水災害・リスクマネジメント国際センター（茨城県つくば市）

3. 日本の貢献

最近では、世界の水問題に洪水などの水災害が入ることは当然と受けとめられているが、20年前はそうではなかった。「第二回世界水フォーラム」（2000年、オランダ・ハーグ市）に参加した日本政府関

係者は、水災害が世界の水問題として扱われていないことに衝撃を受け、「第三回世界水フォーラム」を日本に誘致して、水災害を主要テーマの一つに加えた。それ以降、日本は皇太子殿下が名誉総裁を務める「国連水と衛生に関する諮問委員会」や「水と災害ハイレベル・パネル（HELP）」、「アジア・太平洋水サミット」、「世界水フォーラム」などのグローバルなチャンネルを活用し、国家の発展には水災害への対策が重要であることを世界中にPRしている。

今回の特別会合では、防災への事前投資を増やすため、投資原則を作成することが提案された。今後は、水と災害ハイレベル・パネル（HELP）で具体的な検討が進められていくと思われる。さらに本年12月ミャンマーのヤンゴン市で開催される日本が主導する「第三回アジア・太平洋水サミット」の場も活用し、防災大国・日本が世界の水問題の解決策をリードしていくことが期待されている。



第五回世界水フォーラムでの皇太子殿下の講演（筆者撮影）